

季節を知ったら

暮らしが楽しくなった

（第四三号）

しょうまん

小満

五月二十一日

式年遷宮の幕開け、山口祭

二十年に一度、伊勢神宮の神さまの社殿を建て替え、ご神体を遷す「式年遷宮」という大祭。その幕開けを告げる「山口祭」が五月二日に執り行われました。神宮式年遷宮は、三十三にのぼるお祭りと行事「遷宮諸祭」を重ねます。その最初のお祭りが、山口祭です。社殿を建て替えるために用いるヒノキ材を伐採するにあたり、作業の安全を山の入口で祈ります。

私たちも建物を建築する際には、地鎮祭などを行いますが、伊勢神宮では、ていねいにまず材木の伐採作業の安全を祈るところから、お祭りを行うのです。

この日、伊勢は強い雨に見舞われました。内宮は午前八時、外宮は正午にそれぞれ執り行われました。雨は止むことはなく、それでも、神職たちは肅々とご奉仕なさいました。その中には、「物忌」という重要な役割を担う子どもの姿もありました。神職の子弟で、小学三年生の男女です。伝統的な装束を身に付け、履き慣れない沓を履き、大人に混じって小さな身体で奉仕する姿はけなげに映りました。

お祭りは、齋館から参道を進み、第二鳥居で祓い清める修祓、そして、正宮の御垣内で八度拝、第一別宮（内宮は荒祭宮、外宮は多賀宮）の遙拝を経て、五丈殿で一時間に及ぶ「饗膳の儀」（祝膳）が行われます。その間は、敷物の上に正座をします。そして、野外の山口の祭場に向かい、草木を刈る所作を行う儀式に物忌は臨みます。両手で忌鋏（清らかな鋏）を掲げる様は、作業の安全を祈る、真摯さが伝わってきました。

この日の夜は、雨も上がり、月や星が美しい夜空の下、木本祭も営まれました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 夏まちまつり

「夏の楽しみ、夏までまつな！」を合言葉に本格的な夏の到来より一足早く感じていただきます。その昔、町のあちらこちらに登場した涼しげな物売りや見世物、そして大道芸などで梅雨の晴れ間の楽しいひと時をお楽しみください。

日 時／6月6日(金)～8日(日) 10:00～17:30 (催しにより異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

● 懐かしの紙芝居&大道芸

昔懐かしの紙芝居や、バナナのたたき売りなどの口上芸、息をのむようなジャグリング、パントマイムなど、全国各地で活動する大道芸人たちがおかげ横丁を盛り上げます。

日 時／6月7日(土)、8日(日) 10:00～17:00

場 所／おかげ横丁内「太鼓櫓」、かみしばい広場

出 演／三ツ沢グッチ、石原耕、ももっち、ゼロコ、伊藤祐介 他

● 夏の風物屋台

スマートボール、金魚すくい、カットフルーツ、べっこう飴、うなぎの蒲焼、鮎の塩焼き、冷やし飴など、このお祭りだけの“夏の風物詩”をお楽しみください。

日 時／6月6日(金)～8日(日)

場 所／おかげ横丁一帯

内 容／鮎の塩焼き、枇杷葉湯、鼻緒が選べる下駄、季節の絵手ぬぐい、初夏の盆栽、お菓子が的の射的など

● 茅の輪くぐり

茅葺(ちがや)で作られた直径2mほどの輪をくぐれば、無病息災のまじないになるといいます。本来は神社において6月30日に行われる風習ですが、夏をちょっぴり先取りして行います。

日 時／6月6日(金)～8日(日) 10:00～17:30

場 所／おかげ横丁入口常夜燈付近

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 昭和から令和の御木曳

いよいよ令和7年より第63回式年遷宮の諸行事が始まります。5月には山口祭、木本祭が神宮内にておこなわれ、6月には木曾にて御杣始祭がおこなわれます。御神体を入れる御樋代木をはじめ重要な木の多くは江戸の昔より、はるか木曾から運ばれました。木曾川の水運が大切な運搬手段だったのです。「お木は木曾山谷々超えて、清き流れの五十鈴川」と木遣り歌にも歌われているように、伊勢の人々ははるばるやってきた木を大切に曳いて社殿を建て替えました。20年に一度のお木曳を喜びと共に伝えてきた伊勢の町の話です。

日 時／5月27日(火) 13:30～15:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／山中 一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

ばな
ど ん ど 花

斎宮跡のある明和町には花菖蒲の原種、ノハナショウブが群生しています。「どんど」と呼ばれる取水口付近にたくさん咲いていたことから「どんど花」の愛称で親しまれています。濃紫色の美しい花を、三色の練り切りで表現しました。

い せ なで し こ
伊 勢 撫 子

またの名を「御所撫子」とも呼ばれ、その昔、斎王となられた皇女が遠く都を懐かしみ御所から移し植えたと言われています。薄紅色の羊羹をきんとんに仕立て、今が盛りと咲く、優雅な伊勢撫子に見立てました。

あ お
青 う め
梅

雨の恵みを受け、ここ伊勢の地でも青梅が目にも清々しく、実りの時を迎えようとしています。刻み梅入りの白餡を、外郎で包みました。爽やかな青梅の香りが嬉しい、五月雨の便りです。